

医療連携につきましては、日頃よりご協力いただき、誠にありがとうございます。

▷第26回和GO懇話会

令和 5 年 2 月 8 日（水）大手門パルズで、「第 26 回和GO懇話会」を開催しました。新型コロナウイルス感染予防対策のため、参加者の皆様には消毒及びマスク着用のご協力をお願いし、会場内では座席間隔の確保と換気を徹底しての開催となりました。関係医療機関の先生方にご参集いただき、有意義に開催されましたことに厚く御礼申し上げます。

一般演題

『糖尿病腎症重症化予防について』

～当院での取り組みも含めて～

演者：糖尿病内科部長 岡村 将史 医師（写真左）

座長：佐藤清医院 院長 佐藤 清 医師（写真右）



糖尿病性腎症重症化予防についてご講演いただきました。糖尿病、高尿酸血症などの治療では腎機能値が低下しないよう日ごろの診療が重要で、山形県民においては塩分摂取量が多いことが分かっているため、減塩への取り組みが大切です。近年は、ガイドラインを用いて摂取量を可視化する取り組みが始まっており、患者にフィードバックすることで普段の食生活から減塩への意識が持てるように働きかけられています。また、透析導入となる原因で最も多いのは糖尿病性腎症です。透析治療は国の医療費を圧迫しているため、その予防に取り組むことが医療費削減につながります。

講演では 80 歳代の糖尿病性腎症患者の事例が提示され、低下した腎機能値を入院治療により改善した例が報告されました。腎機能を改善させるために患者にどう説明すべきか、糖尿病の自覚症状がない患者への指導のポイントなどについて解説していただき、豊富な経験を持つ専門医の視点から学びの多いお話をいただきました。

特別講演

『腫瘍外科の新展開』

演者：山形大学大学院 医学系研究科医学専攻外科学第一講座

教授 元井 冬彦 先生（写真左）

座長：副診療部長 須藤 直行 医師（写真右）



腫瘍外科の新展開というテーマでご講演をいただきました。癌に対する治療法として、外科手術や低侵襲ロボット手術のほか、遺伝子診断により予防的臓器切除も選択肢の一つとして挙げられます。リスク低減両側乳房切除については、山形県内では山形大学医学部附属病院でのみ実施可能となっており、予防的切除は若年者や両側性乳癌患者を対象に現在まで 6 例を数えます。

脾臓癌は、年々患者が増加して死亡原因の第 4 位となっており、山形県内においても人口が減少しているのに反し、脾臓癌患者は増加しています。術前に化学療法を行うコンバージョン手術は、予後 10 か月以上延伸させることが分かっており、切除可能な脾臓癌は術前化学療法を実施してから手術を行う流れになっています。治療成績は向上してきており、難治性癌に対してコンバージョン手術は必要な治療とされています。

重粒子線治療も保険診療が広がるなど、癌に対する外科治療戦略が変わってきている状況にあるため、患者に合わせて適切にあきらめずに治療することが重要であると症例も交えて難治性癌治療の展望に関して大変貴重なお話をいただきました。

今後も地域医療の発展のため、先生方の御要望をお聞きしながら尚一層の努力を重ねて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

